

いま、そして 市民福祉都市を目指して

本市は、すべての市民が、お互いの温かいおもいやりの中で、健康で生きがいに満ちた暮らしを営む社会を築く。また、市民一人ひとりが自立し、各人の能力が自由に発揮され、個性と創造性あふれる多彩な人材が育つ都市を目指す。

HUMAN CITY KUMAMOTO

●位置図



生きがい作業所陶芸講座

豊かで明るい長寿社会の創造

人生80年時代を迎え、市民が生涯にわたって、健康で生きがいをもち、安心して生活できることが望まれています。

●在宅介護の支援

高齢化の進展に伴い、寝たきり、痴呆性老人な

などの介護を要するお年寄が増加しています。熊本市では、こうしたお年寄や家族に対して、平成4年にオープンした長寿の里デイサービスセンターを含む9箇所のデイサービスセンター利用やホームヘルパーの派遣、ショートステイの利用、日常生活用具の給付、移動浴槽車の派遣の外、在宅介護等のいろいろな相談やサービスの調整を行う在宅介護支援センターの整備など、在宅介護の支援体制を強化しています。なお、家庭での生活が困難になった方には、養護老人ホーム、特別養護老人ホームへの入所の相談をお受けしています。

●生きがいづくりの支援

比較的元気なお年寄に対しては、老人作品展やスポーツ大会の開催、老人福祉センター、生きがい作業所、老人憩の家などを通じ生きがいづくりを支援しています。

●老人保健福祉計画の策定

平成5年度には、将来必要とされるサービス提供体制を計画的に整備していくための老人保健福祉計画を策定します。

高齢者、障害者にやさしいまちづくり

高齢者や障害者の人が、身近な公共施設を安心して、気軽に利用できるよう、公共建築物等の改良を進めています。

床面から上昇し、車椅子のまま入浴できる昇降式浴槽



高齢者福祉
HUMAN CITY KUMAMOTO



熊本市心身障害者大運動会

心身障害者福祉

HUMAN CITY KUMAMOTO

心身障害者が、希望に満ちた社会生活を営むため、福祉サービスの新しい展開に努めています。平成2年9月に開設した精神薄弱者施設「平成学園」は、定員60名の通所施設のみでなく、在宅障害者に対して短期的保護や訓練ができる短期宿泊訓練棟やふれあいと交流を図るための「ふれあい棟」、作業指導のための「作業棟」等を開設しました。

今後21世紀を展望した、新熊本構想の「いきいきとした市民福祉都市」実現にむけて、基本計画を具体化する事業を進めています。

身体障害者福祉

1. 在宅福祉サービス

(1) 障害者の日常生活援助のために、補装具、日常生活用具給付等事業を実施

豊かで明るい長寿社会の創造

(4) その他障害者住宅整備資金貸付事業、特別障害者手当等の給付、更生医療給付の事業等を実施しています。

2. 施設福祉サービス

社会的更生を図るために、さまざまな指導・訓練が必要である障害者に対しては、身体障害者更生援護施設等への措置を行っています。

精神薄弱者福祉

精神薄弱児(者)の多様なニーズに対応するため福祉相談室を設置し、精神薄弱児(者)の検診および生活指導等を行っています。

在宅者に対する福祉サービスは、ホームヘルパーの派遣、特別障害者手当等の給付、特別児童扶養手当の支給、重度心身障害児(者)の医療費助成のほか、心身障害者福祉タクシー事業、特別回数券の交付、優待証の交付等を行っています。

精神薄弱者が在宅での生活を基本としながら専門的訓練等を受けることができるように、精神薄弱者通所更生施設「はなぞの学苑」及び「平成学園」を設置し、生活指導・訓練体制を一層強化すると共に、「平成学園」では、短期的に保護または訓練等が必要な在宅障害者に対して、短期宿泊訓練棟を併設し、在宅生活がより可能となる事業を実施しています。

さらに、重点的に作業指導・訓練を実施するため平成4年度に作業棟を設置致しました。

また、その他の精神薄弱者援護施設への措置を行うことにより、精神薄弱者の社会的更生を図っています。

その他障害者住宅整備資金貸付事業、福祉センター「希望荘」の運営、心身障害者体育大会等を実施しています。

するとともに、ホームヘルパーの派遣、入浴サービス事業等を一層拡充しています。

(2) 障害者の社会参加を促進するために、心身障害者福祉タクシー事業及び特別回数券の交付事業のほか、盲人ガイドヘルパー派遣、手話奉仕員派遣、自動車運転免許取得助成等の各事業を行うとともに、福祉センター「希望荘」において、障害者デイサービス事業を行っており平成5年度から、機能訓練機器や車椅子入浴装置を設置し機能拡充に努めています。

(3) 障害者が社会的に自立するための活動を支援するために、小規模作業所に助成を行い、就労等の各種相談については「希望荘」において専門的指導を行っています。



ふれあいランチ

住み慣れた地域社会の我が家で、家族や近隣の人々とのふれあいの中で暮らせる社会の実現は、誰もが願うところです。

手助けを要する高齢者や障害者も、家庭で地域社会の一員として暮らしていけるよう、周囲の人々や組織による地域連帯感に根ざした取り組みを積極的に支援するなど地域福祉の増進に努めています。

地域福祉コミュニティセンター

地域住民主体による福祉活動を支援するとともに、交流活動など各種コミュニティ活動の振興に資するため、その拠点施設として整

備しているもので、昨年開設した楠・出水・春竹・城南の各センターに引き続き、今年も4ヶ所にオープンします。

熊本市福祉公社ヒューマンライフ

増大する在宅福祉ニーズに対応するため、市民の参加と協力を得て、家事や介護などのホームヘルプサービスを中心に、情報の提供・相談などのサービスを提供します。

在宅福祉センター

在宅の虚弱老人や心身障害者およびその家族の方々のために、デイサービスやホームヘルプサービス、在宅介護に関する相談など在宅介護の総合的な福祉サービスを

豊かで明るい長寿社会の創造

提供するとともに、地域住民による福祉活動や交流活動を支援するための拠点施設となるもので、このほど開設した南部地区に続き、本年度も東部地区に建設するなど、順次整備しています。

社会福祉協議会

社会福祉協議会では地域住民の助け合い、支え合いの精神に根ざしたボランティア活動の支援など地域福祉のための各種事業を展開していますが、これまで積立ててきた福祉基金の果実を本年度から活用し、例えば、一人暮らし老人等の家庭に心のこもった手作り食事を届ける、いわゆる「ふれあいランチ」事業を実施する地域がもっと広がるよう、積極的に助成するなど地域福祉活動を強化します。



社会保障
HUMAN CITY KUMAMOTO

生活保護

生活保護制度は、生活困窮者に最低限度の生活を保障し、併せて自立の支援をすることを主な目的としています。

平成3年度の生活保護世帯の状況は、受給世帯が5,520世帯、人員が8,521人となっており年々微減傾向にあります。また、保護率は市中央部の人口減少地区で高く、周辺地区においては低くなっています。

受給世帯の状況を見ると、高齢者世帯が45.9%、傷病障害者世帯が38.01%、母子世帯が8.68%となっており、高齢者世帯の占める割合が高くなっています。また、扶助の種類から見ると、医療扶助の占める割合が全体の約6割と最も高く、生活扶助、住宅扶助と続いています。

福祉事務所では、複雑な社会情勢を反映して多様化する保護世帯の問題について、原因やその解決策を考え、適切な援助に全力を尽くしております。

国民年金

日本は世界に例のない速さで高齢化社会を迎えています。このため、私達の老後の生活を保障する公的年金は、たいへ

ん重要な役割を担っています。

国民年金制度は、昭和34年に発足して以来、物価スライド制の導入など、制度の改善や充実を図りつつ今日の制度へと発展してきました。特に昭和61年には国民年金、厚生年金、共済年金に共通の基礎年金制度が導入され、公平で長期的な安定を目指す制度へと大きく変わりました。また、平成3年度からは、これまで任意だった学生の加入が強制となり、全ての国民が何らかの公的年金に加入することとなりました。

熊本市の平成3年度の年金受給者は57,597人、年金受給総額は233億円で、老齢給付の割合が最も高く、ついで障害、遺族給付の順となっています。

市では、豊かな市民生活、特に老後の生活の基盤となる年金権を、すべての市民が確保できるよう、幅広い広報活動を行うほか、職員、国民年金委員、国民年金推進員による戸別訪問等も実施し、制度の普及と保険料収納の強化に努めています。

国民健康保険

地域の医療保険として、昭和34年に発足した国民健康保険は、長年にわたり市

民の健康保持と増進に大きな役割を果たしてきました。

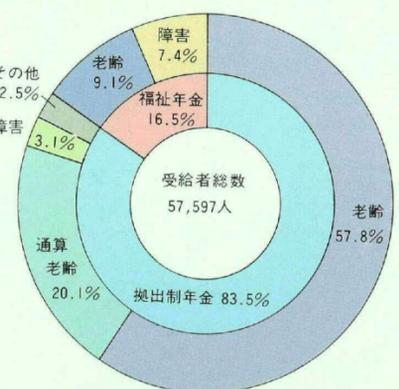
現在の加入者は、人口の約30%にあたる191,103人（平成4年3月末）で、その多くは農業・自営業・年金受給者の方です。しかしながら近年の高齢化の進展、医療費の増嵩等により国保財政は依然厳しい状況にあります。

この状況を乗り切るためには、保険料収納率向上対策や医療費の適正化を進める一方、保健・医療・福祉の各分野と連携を取りながら総合的な国民健康保険事業の運営を図る努力をしていきます。

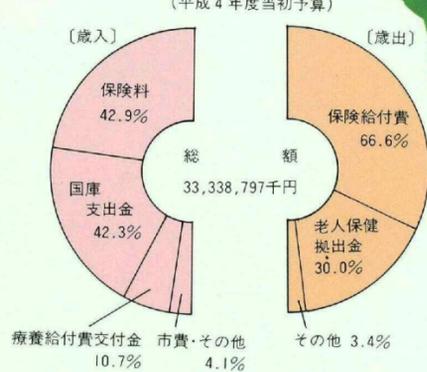
●年金受給者と受給総額の推移



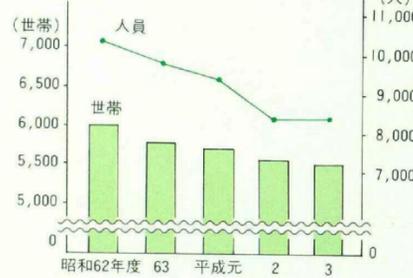
●年金受給者の種類 (平成3年度)



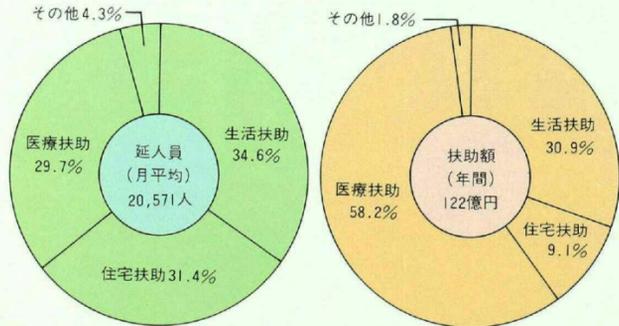
●国民健康保険会計 (平成4年度当初予算)



●生活保護世帯・人員の推移



●生活保護の状況 (平成3年度)





西原公園児童館

豊かで明るい長寿社会の創造



母と子のふれあいクリスマスケーキづくり

児童・母子福祉
HUMAN CITY KUMAMOTO

21世紀を担うすべての児童が明るく健康やかに成長することを願い、児童福祉の充実、向上に努めています。

また、母子及び寡婦福祉法の理念に基づき、母子家庭及び寡婦の生活の安定・向上及び福祉の増進を図ることを目的として、児童扶養手当の支給、母子家庭に対する医療費の助成などの施策を実施しています。

保育所

仕事・出産・病気等で子どもの日々の保育が十分にできない保護者のために、129ヶ所の保育所があります。ここでは、集団生活、遊びなどを通して、心身共に健やかな子どもに育つよう保育内容の充

実、向上に努めています。このほか、乳児保育、障害児保育、延長保育、長時間保育などにも力を入れています。また、一時的保育事業や子育て電話相談事業も行っています。

児童館

市内に9ヶ所の児童館があります。ここでは、集団で遊ぶ機会が少なくなった子どもたちのために遊び場を設け、遊びの中から集団生活のルールや楽しさを教えています。

母子寮

母子家庭の保護と経済自立のために、2ヶ所の施設がありますが、ここでは家庭環境をよくし、子供たちの健やかな成

長のための指導援助を行っています。

母子福祉センター

母子家庭や寡婦の皆さんの明るい未来と希望を育むため、各種の相談、技術の習得講座、教養講座、母と子の絆をより強くするための自主事業等を積極的に展開し、思いやりあふれる地域社会づくりをめざして、母子福祉の一段の向上に全力を挙げています。

助産施設

経済的理由で入院出産の困難な妊産婦のために、軽い負担で利用できる熊本産院があります。この産院では、母親とその子供の健康と安全管理に努めています。

健康文化
HUMAN CITY KUMAMOTO

スポーツ・レクリエーション

体育・スポーツは、健全な心身の発達を促し、人間性を豊かにするとともに、健康で文化的な生活をおくるための営み



であり、活力ある都市づくりを進めるうえで極めて重要な役割を果たしています。

本市では「21世紀へ向けての明るく豊かな健康文化都市づくり」を目指し、体育・スポーツを、生涯を通じた健康文化

豊かで明るい長寿社会の創造

活動としてとらえ、その実現を図るための総合的な施策の推進に努めています。

スポーツ施設等の整備拡充

市民のスポーツ・レクリエーション活動の拠点として、公園機能を備えた浜線健康パーク、南部総合スポーツセンターをはじめ、野球場、武道場、庭球場、体育館並びに新装された水前寺競技場など多くのスポーツ施設があります。また、現在も清水地区に健康文化施設を建設中です。

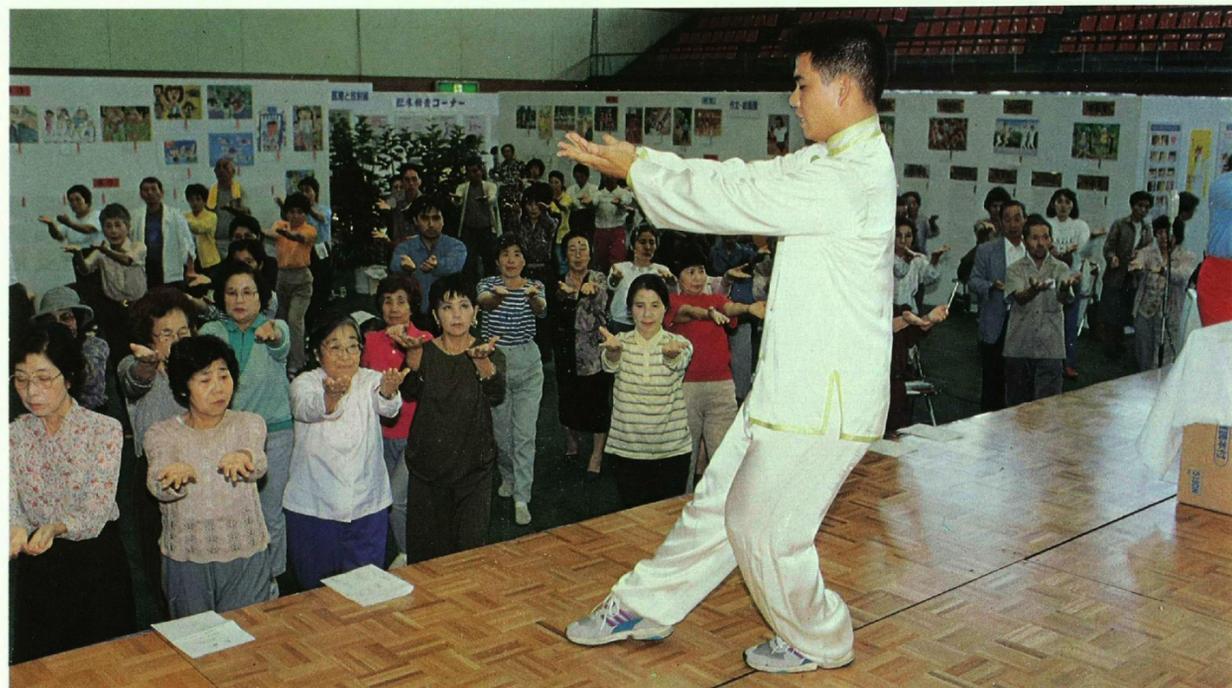
さらに、今後市民が日常生活の中で、いつでも気軽に利用できるような健康文化施設の整備拡充と効果的利用の促進に努めていきます。

スポーツ活動の振興

市民総参加として定着している市民体育祭など各種行事を尚一層推進するとともに、ミニバレーボール大会など地域に根ざしたスポーツ文化活動の促進、高齢者スポーツの普及振興など市民総スポーツ活動の推進に努めていきます。このほか社会体育組織の充実や指導者の育成・確保にも力を注いでいます。

南部総合スポーツセンター





健康フェスティバル

保健衛生

今日、本格的な高齢化社会を迎え、長い人生を健やかに楽しく、積極的に生きて行くため、単に、「健康を守る」にとどまらず、一歩進んで積極的に健康を増進する必要があります。疾病の早期発見、早期治療とともに、積極的な予防として

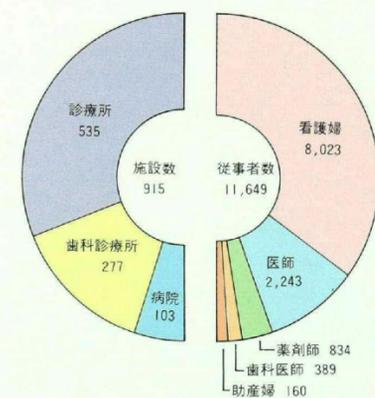
の健康づくりが求められています。そこで、健康で生きがいに満ちた市民生活を目指し、昭和54年に「健康都市宣言」を行い、昭和61年には「市民健康の日」を10月1日と定め、10月を健康づくり月間として、健康づくりが市民の自主的な日常活動として、さらには生活文化の一部として定着するように市民健康の

日展、市民健康の日記念講演会、熊本市市民健康フェスティバル及びいきいきはつらつヘルシーウォーク、さらに、地域健康まつりの開催など市民意識の高揚に努めています。

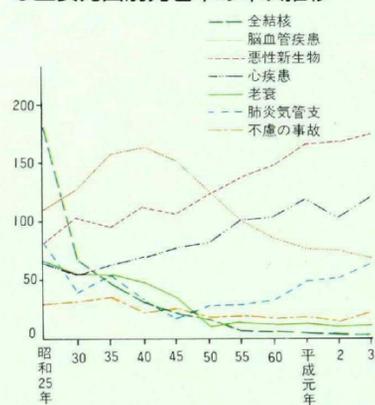
また、生涯を通じた自主的な健康づくりを支援する拠点として、2保健所のほか3保健センターを中心に地域に密着したきめ細かな保健活動を行い平成3年度には肝臓がん検診も始めるなど各種健康診査や健康教育・健康相談などの保健サービスの充実を図っています。

一方、急病患者の迅速かつ適切な初期医療を確保するため、熊本市医師会地域医療センターに業務を委託し、さらに、熊本赤十字病院に補助を行い人口が急増している東部地区の夜間医療の確保など、24時間救急医療体制の整備拡充を図っています。

●医療施設と従事者数(平成4年度)



●主要死因別死亡率の年次推移



磁気共鳴イメージング装置(MRI)

市民病院

熊本市市民病院は、診療科23科、病床数580床(伝病40床を含む)を有する地域医療の中核的な総合病院として、年間の入院患者数約20万人・外来患者数約30万人を数え、一般医療のほか高度・特殊医療を担当しながら自治体病院としての役割を果たしています。

特に新生児医療については、新生児医療センター80床(内NICU20床)を設け、全県下を網羅し、しかも24時間体制で活動しています。

また、伝染病隔離病舎は県下33市町村をカバーしています。

平成4年度は、結石治療の推進を図るため体外衝撃波結石破碎装置を導入しました。

その他の高度医療機器としてガン治療



体外衝撃波結石破碎装置

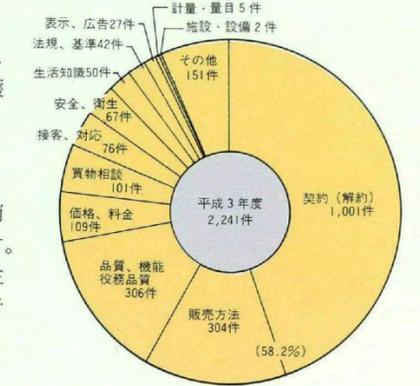
の推進を図る県下唯一のハイパーサーミア(電磁波温熱療法装置)を始めMRI(核磁気共鳴イメージング装置)も保有しています。

救急医療については、熊本中央医療圏の2次救急医療機関として休日・夜間の病院群輪番制をとっています。

また、患者の皆さんのニーズに対応するためアメニティー対策として外来のカーペット張り・中庭の整備・喫煙室の設置等を行うと共に給食部門では適温給食とセレクトメニューの提供も軌道にのり患者さんから喜ばれています。

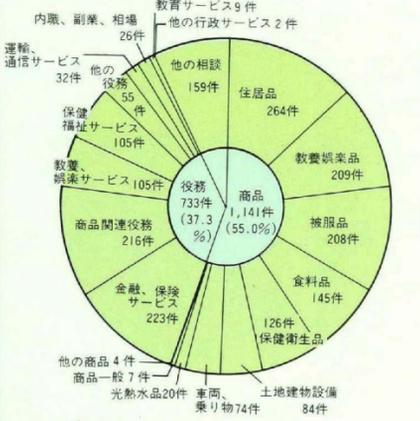
今後は、待ち時間の短縮・駐車場の確保をはじめ高度医療の推進・ガン診療の充実・小児医療の充実・難病対策を基本に各部門のさらなる充実を図ることにしています。

●内容別相談件数



※1件あたりの相談内容が重複しているため、総件数が2,241件となった。

●商品別相談件数

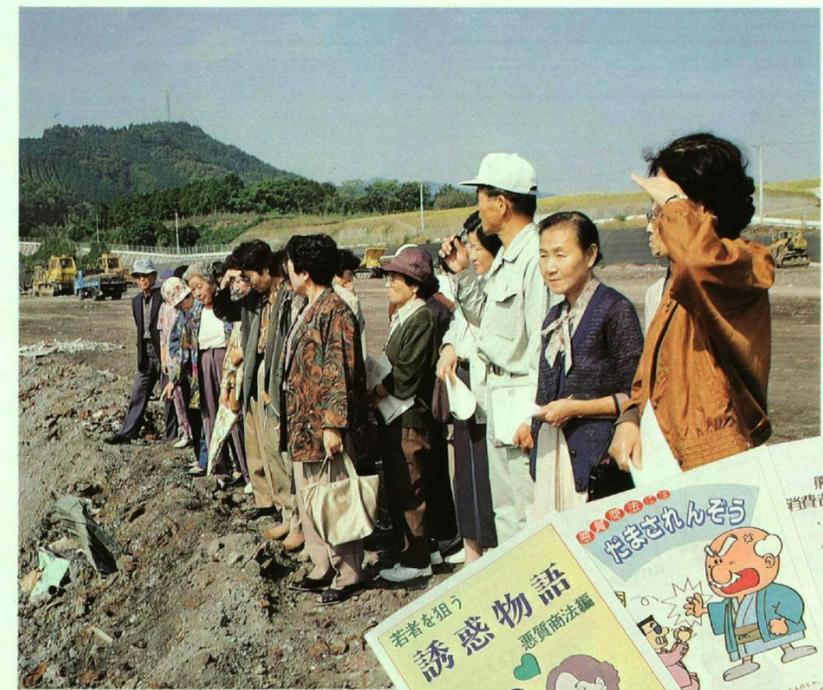


もたらしたりすることもあります。そこで我が国では、昭和43年に「消費者保護基本法」が定められました。本市でも自立した消費者を目指して、くらしに役立つ講座「消費者セミナー」や、ご希望の地域への出前講座など、消費生活に関する情報提供を行っています。また、消費者センターを設置し、消費生活相談や消費者団体の育成など消費者行政の推進に積極的に取り組んでいます。

最近の消費者相談
消費者センターに寄せられた平成3年度消費生活相談は2,073件でした。

私たちが取り巻く経済社会の変化はめざましく、多くの物やサービスで豊かになりました。日々に新しい商品が出回り、果たしてどの商品がより安全なのか、品質がより優れているか、価格は適正かなど、見分けることが難しくなってきました。また商品が私たちの手に渡るまでの仕組みも大変複雑になっています。そのうえテレビラジオ、新聞雑誌などによる商品の広告宣伝も、私たちへ大きな影響を与えています。

このような状況の中では、消費者の利益が損なわれたり、時には深刻な被害を



消費者セミナーにおける見学(扇田埋立地)



また、勤労者の融資について信用力を補完し、生活維持の向上安定を図るため、熊本県勤労者信用基金協会に出捐しています。

さらには、退職金制度を普及するため、中小企業退職金共済制度掛金の助成を行っています。

**中小企業のための
ふれあうきょうさい**
熊本市中企業勤労者福祉共済

あなたの会社の
福利厚生を
熊本市があと押しします。

この共済に加入されると、わずかな掛金(1人1月300円)で…従業員の方々に…

福利 自分時間を積極的に活用して楽しい思い出を
それぞれの季節…**ツアー旅行** に安い費用で参加できます
職場対抗…**スポーツ大会** で汗を流して親睦を盛りだくさんの…**パーティー** で心に残る思い出を
今の世の中…**文化教養講座** を軽い気持ちで
夏には…**海・山の家** が利用できます
いろいろ…**割引** があります
いろいろ…**補助** もあります

給付 お祝い、お見舞いとして
満20歳に達したとき…**成人祝金**
結婚したとき…**結婚祝金**
出産したとき…**出産祝金**
子供さんが小学校に入学したとき…**入学祝金**
子供さんが中学校を卒業したとき…**卒業祝金**
銀婚式を迎えたとき…**結婚25年祝金**
病気やケガで30日以上欠勤したとき…**傷病見舞金**
共済加入期間が5年を越えたとき…**永年褒賞金**
共済加入期間が10年を越えたとき…**永年褒賞金**
本人が死亡したとき…**死亡弔慰金**
配偶者が死亡したとき…**死亡弔慰金**
1親等血族が死亡したとき…**死亡弔慰金**

貸付 不時の出費が必要なときに

事業内高等職業訓練校における実習風景

ゆとりある勤労者生活を応援します。
本市の雇用福祉対策は、人材の確保・定着、勤労者の技能・技術の向上、勤労者の福利厚生の充実を主な事業として、勤労者の皆さんが豊かなライフワークを送ることができるような職場づくりのお手伝いをしています。

(人材の確保・定着)
若年労働者の確保・定着を図るため、職業安定機関との連携を図り、近隣町とともに熊本雇用対策協議会を組織する一方、熊本市産業開発求人对策協議会等民間団体とともに人材の確保に努めています。

また、中高年齢者雇用対策として熊本中高年齢労働者福祉セン

ター(サンライフ熊本)や熊本市役所に相談窓口を設置しております。

(技能・技術の向上)
本市産業の発展を担う若年技能者・技術者等の人材育成機関として熊本市職業訓練センター、熊本市職業訓練短期大学校、熊本市事業内高等職業訓練校の運営を支援し、また勤労者・未就職者・転職希望者等を対象にパソコン・ワープロなどの各種講座を設けています。

(勤労者福祉の向上)
施設面では、勤労者の健康増進と文化・教養の向上を目的として設置された中央勤労青少年ホーム、北部勤労青少年ホーム、勤労婦人センター、熊本中高年齢労働者福祉センター(サンライフ熊本)、熊本勤労者体育センター、熊本勤労総合福祉センター(火の国ハイツ)があり有効利用を図っています。

制度面では、熊本市中企業勤労者福祉共済制度を設け、勤労者のスポーツ大会・団体ツアー等勤労者の福利厚生のために各種の事業を行っています。



HUMAN CITY KUMAMOTO
雇用福祉

男女共同参画社会

HUMAN CITY KUMAMOTO

今や女性は様々な形で社会に参加・参画し、生き方が多様化しています。また、それに伴い男性の生き方も再考を迫られています。

21世紀を目前にし、市では男女が共に社会のあらゆる分野に参加・参画し、平等な立場で個性と能力を発揮し共に支え合う、いわゆる『男女共同参画社会』の実現をめざしています。このため「くまもと市女性プラン」を策定し、あらゆる分野での男女平等を推進するとともに、幅広い分野にわたっている女性に関する施策を総合的・計画的に進めています。

また、女性自身の意欲と能力を高めるため、自主グループ登録制度を設置し、自主的な女性グループの交流や連携を図る一方、女性リーダーの養成や人材把握にも努めています。

さらに、男女平等や女性問題に関する啓発事業として、女性フォーラム等の開催や地域に根ざした啓発活動、啓発情報誌「はあもにい」の発行などに



学習会



男性日曜セミナー

も取り組んでいます。

熊本市総合婦人会館・カルチャーセンター

男性も女性も共にいきいきと暮らす、調和のある市民社会の実現を目指して、男女の自立や社会参画のための活動と交流の拠点として、また市民文化振興の拠点施設として平成2年4月オープン以来52万人(平成5年3月現在)を超える方々にご利用いただいております。



くまもと女性フォーラム自主グループ作品展示

21世紀を担うづくり

会館では、自主的な活動の支援にとどまらず、女性を取り巻く社会問題を解決するため、女性問題啓発事業・自己開発事業・生き方支援事業・情報提供事業を行うとともに、会館から生まれる文化と人を目指して、地域に根ざしたいろいろな文化振興事業を展開しています。

さらに、平成4年度から高度情報化時代の先端メディアであるハイビジョン機器を設置し、地域文化の発信基地としての役割も担っています。



スタートした学校週5日制「カヌー教室」(奥古閑小)

学校教育

HUMAN CITY KUMAMOTO

～学校週5日制の実施～

今回の教育課程改善の視点である「個性重視」「生涯学習体系への移行」「変化への対応」を基盤にした教育経営と都市像「ヒューマンシティ・くまもと」の実現をめざして、愛情と信頼に基づく教育を推進しています。

心豊かな人づくり

徳・知・体の調和ある人間形成のために道徳教育や基礎学力の充実、生徒指導の徹底、さらに環境教育、郷土教育、福祉教育などの推進を図っています。

また、同和教育は、すべての児童・生徒に人権尊重の精神を認識させ、部落差別をはじめ、あらゆる差別をなくしていく意欲と実践力を育成するため全教育活動を通して積極的に推進しています。

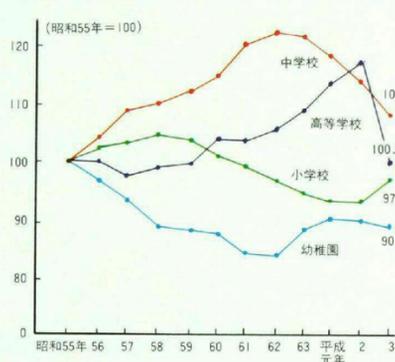
進展する社会への対応

国際化に対応できる教育の実現のために、国際理解教育実践校の委嘱や、アメリカ、イギリスから7人の英語の先生を招いて、生きた英語学習を進めています。

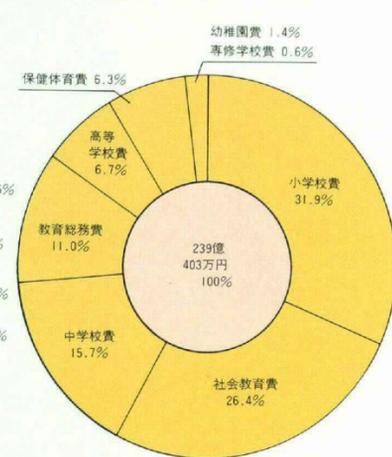
健康づくり

基礎体力の養成とともに、心の健康を大切に健康教育研究校の委嘱、健康

●在学者の推移(幼・小・中・高)



●平成4年度教育費(歳出当初予算)



推進学校の育成や部活動の適正化など、心身ともに健康な生活習慣の育成を図り、生涯にわたり健康で充実した生活を送ることができるよう健康教育を推進しています。

指導力の向上・研修の充実

千葉城町にある教育センターでは、学校教育並びに社会教育に関する教育課題の解決に必要な調査、研究をはじめ、教育関係者の研修、各種教育相談など指導力向上を図るための場と機会を積極的に提供し、その活用を図っています。

学校週5日制

学校週5日制は、平成4年9月から月1回第2土曜日に、公立の全ての学校・幼稚園で実施されています。この学校週5日制は親子のふれあい、子供同士のふれあい、また子供と大人の交流や、地域の方々とのかかわりなどにより、豊かな情操や、社会性の育成を図り、また、社会体験などを通して、社会の変化に対応できる心身ともに調和のとれた人間の育成をめざしています。この制度の趣旨が生かされるように、家庭での御理解と御協力、地域における社会教育活動の創意と工夫が期待されています。



熊本市立高校食堂



熊本市立高校

学校施設

HUMAN CITY KUMAMOTO

うるおいとゆとりのある教育環境づくり

徳・知・体の調和ある人間形成には、うるおいとゆとりのある教育環境が必要です。

市では、より豊かな教育環境づくりを進めるために、校舎の増改築をはじめ、学習指導方法の多様化に対応できる施設の整備、教育の適正化を図るための過大規模校の分離新設、体力向上を図るための体育施設の整備拡充、文化性を取り入

れたふれあいの場づくりなど、毎年計画的に質的整備を進めています。

平成4年度は、市立高等学校で『食文化』を考慮した複合施設が完成しました。これは、食事を共にとることにより生徒間や教師との交流、さらに、食事マナーなどの道徳教育の向上を図る食堂施設と講演会や研修会などの文化的行事が開催できる多目的ホールとを2階建の建物の中に複合化したものです。このような施設は、県下でも初めての試みであり、会

話をしながら食事を楽しむよう設備面にも十分に配慮した施設としております。

また、学校の顔である正門及びその周辺付近の整備も実施しており、都市景観と合致した緑豊かな教育環境づくりを進めています。

心身共に健全な児童生徒を育成するために、今後もこのような施設づくりを実施し、うるおいとゆとりのある教育環境づくりを推進することとしています。

生涯学習の推進

市民の学習活動が高まるなか、本市では年間約36万人の方々が公立公民館等において生涯学習に取り組んでいます。

本格的な生涯学習社会の到来の中で、社会の変化や市民のニーズに的確に対応する生涯学習の総合的・効果的な推進を図るため、平成4年8月、「熊本市生涯教育基本調査委員会」から「熊本市における生涯教育の推進方策について」3項目にわたり提言を受けました。今後、この提言をふまえ、本市がさきに策定した21世紀を展望した「基本構想」・「基本計画」における生涯教育・学習の諸施策について取り組んでいます。

図書館

図書館は、54万冊余の図書資料の貸出、読書相談のほか、図書展、本の読み聞かせや紙芝居、読書啓発の講演会、視聴覚ライブラリーの市民映画の会、子供映画の会等の催しを行っています。

また、図書館は、移動図書館、分館機

能を有する9ヵ所の公民館図書室と共に本市の図書サービスネットワークを形成し、多数の市民に利用されています。

なお、高度化、多様化した市民の読書需要にこたえ、21世紀を展望した生涯学習の基幹施設として、更に、旧飽託郡四町との合併による新熊本市に相応した新図書館の建設について、基本計画を策定中です。

公民館

専用施設の中央公民館と各地域に複合施設として、西部、南部、東部、龍田、託麻、幸田、清水、秋津、大江、花園、北部、飽田、五福公民館の合わせて14の公民館があり、また北部公民館に北部東、西里の2つの分館があります。

このほか、市民の身近な生涯学習の場である地域公民館（公民館類似施設）が398館あり、それぞれ地域の特色を生かした様々な活動を展開しています。

博物館

熊本城三の丸地区にある博物館は、自然・人文・理工科学関係資料約5,000点

を展示し、これに最新のプラネタリウムを併設した県内唯一の総合博物館です。

また、資料収集・調査等を行うとともに、教育普及活動として「星を見る会」をはじめとする各種学習講座の開設、特別展示会を開催するなど多くの人々に利用されています。

平成4年度は、プラネタリウム新機種導入を記念して、宇宙科学展を開催し好評を得ました。平成5年度は、火の国フェスタに合わせて、「肥後の船と人びとの暮らし」の特別展を開催する予定にしています。

人権啓発

日本国憲法は、すべての国民に基本的人権の享有を認め、生命・自由及び幸福追求に対する権利を尊重し、さらに法のもとに平等であることを保障しています。

しかし、今日なお、部落差別をはじめいじめや体罰の事実、女性や障害者及び在日外国人に対する差別の問題など、一日も早く解決しなければならない人権問題が存在しています。

なかでも、部落差別は、日本社会の歴史的発展過程の中で作り出された不合理な差別であり、同和地区に生まれたというだけで、結婚や就職に際して差別を受けたり、生活環境が低位の状態に置かれたり、職業が不安定であるなど、市民的権利と自由が侵害され、時には生命まで奪われるという深刻な問題であります。

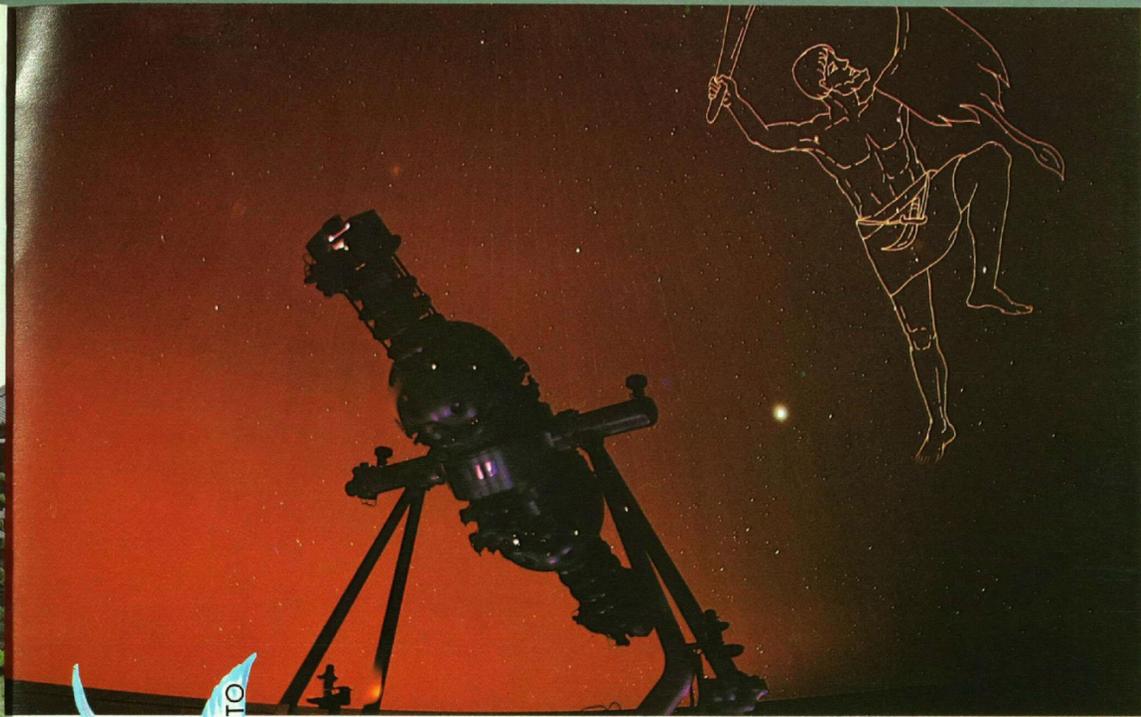
本市では、これらの問題解決は行政の責務であるとの認識のもとに、市民一人一人が同和問題をはじめとするあらゆる差別の本質をはっきりととらえ、自分の課題として受け止められるよう、講演会・研修会の開催、啓発資料の作成、市政

だよりによる啓発など、市民生活のあらゆる場で教育・啓発に力をいれています。

市立博物館「プラネタリウム」

社会教育

HUMAN CITY KUMAMOTO



昨年9月から「学校週5日制」がスタートしましたが、青少年の健全育成のために、学校・家庭及び地域社会がさらに力を合わせ取り組む必要があります。

1. 健全育成活動の推進

家庭教育の充実を推進し、青少年団体の育成や活動促進を図ります。また、青少年指導者技術講座、キャンプリーダー講習会などを開催しリーダーの養成を行います。

放課後保護を受けられない児童のための児童育成クラブの開設、青少年補導センターや青少年の悩みごと相談窓口（ヤングテレホン）、地域の青少年健全育成活動の充実にも力を入れています。

2. 青少年施設の整備充実と交流の推進

「金峰山少年自然の家」、阿蘇大観峰の麓にある「青少年野外活動センター」、島崎5丁目の「ユースホステル」、出水2丁目の「総合体育館・青年会館」などに

加え、子どもが伸び伸びと遊び学べる「子ども文化施設」の建設にも取り組めます。

また、中南九州各市への中学生訪問団の派遣、桂林市やサンアントニオ市、ハイデルベルク市への高校生訪問団派遣、交換留学、文化スポーツ交流など、青少年の国内・国際交流にも力を入れています。



青少年善行表彰式風景

青少年の健全育成

HUMAN CITY KUMAMOTO

市制100周年記念人づくり基金制度

熊本市では、平成元年に市制施行100

周年を迎えましたが、その際、記念事業の推進資金として、市民各層から多額の浄財が寄せられました。

市では、高齢化や国際化、情報化等変革の時代の中で、熊本市をさらに飛躍、発展させるため、21世紀の各分野において指導的役割を果たすべき、国際感覚を備えた創造性豊かな人材の育成を目的として、平成元年4月1日この浄財とふるさと創生資金を基金とする、熊本市制100周年記念人づくり基金制度を創設いたしました。

人づくり基金制度に基づき、市では
1. 環境の保全と創造（生活環境・

自然環境・文化環境）に貢献する人

- 2. 国際交流に積極的に貢献する人
- 3. 社会福祉に積極的に貢献する人
- 4. 伝承文化の継承に貢献する人
- 5. それぞれの分野で、独自の業績、又は活動が期待される人を対象として、毎年2回（前期2月・後期8月）募集を行ない、研修・研究活動への援助等を実施しています。

平成4年度には、前期、後期合わせて41件の応募があり「人づくり基金選定委員会」の審査の結果、21件に対し援助金が交付されました。



人づくり基金交付式



米国・カリフォルニアにおいて障害者の自立のための研修（人づくり基金）

創造的な人づくり

HUMAN CITY KUMAMOTO